

米軍普天間飛行場所属の垂直離着陸輸送機MV22オスプレイの相次ぐ事故に関する決議

米軍普天間飛行場所属の垂直離着陸輸送機MV22オスプレイがオーストラリア東部クイーンズランド州・ロックハンプトン沖で訓練中に、現地時間8月5日午後4時ごろ墜落し、乗組員3人が死亡する重大事故が発生した。

米軍普天間飛行場所属の垂直離着陸輸送機MV22オスプレイは、昨年12月に名護市安部の沿岸に墜落、同日別の機体が普天間基地に胴体着陸していた。また8月29日には、エンジン故障で大分空港に緊急着陸している。

MV22オスプレイは不安定な機体構造のため、開発段階から重大事故が相次ぎ、これまで乗組員40人以上も死亡するなど、米国でも専門家から安全性への懸念、欠陥が強く指摘されている。

8月5日の事故の際、沖縄県は事故に対する抗議と飛行自粛を求めたにもかかわらず、米軍は事故の原因究明も明らかにしないまま2日後に飛行を再開し、横田基地にも飛来してきている。横田経由北海道での訓練に参加した6機のうちの1つが、今回大分空港に緊急着陸した。

9月10、11日には東富士演習場で離発着訓練を行うとのこと。

MV22オスプレイの整備は、陸上自衛隊木更津駐屯地において定期整備が開始されている。

米軍普天間飛行場所属のMV22オスプレイは、横田基地にも飛来しており、本市の上空はもちろん全国の上空を飛び交い、一歩間違えれば市民、都民、国民を巻き込む大惨事につながりかねないだけに、相次ぐ墜落事故や不時着など緊急着陸への衝撃は大きく、不安と恐怖ははかり知れないものがある。

しかるに何ら有効な再発防止策も講じられないまま、米軍普天間飛行場のMV22オスプレイの飛行を強行したのは、市民・都民・国民の生命と安全よりも米軍の論理を優先するもので断じて容認することはできない。

よって、本市議会は、政府に対し、米軍普天間飛行場所属の垂直離着陸輸送機MV22オスプレイの重大な墜落事故と飛行再開に強い怒りを込めて抗議し、三鷹市民と都民・国民の生命と財産を守る立場から事故の原因究明と飛行中止を強く求める。

上記、決議する。

平成29年9月28日

三 鷹 市 議 会

